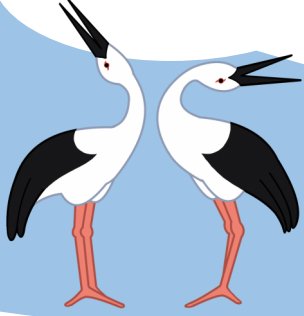


コウノトリ



毎週月曜日更新

カタカタ通信

第218号

「巣台の経過～仁王立ちまで～」

2026年3月2日

繁殖シーズンが始まって2か月が経ちました。日ごとに変化する巣の様子を並べてみました。



2026年1月7日

巣材を入れて1週間の頃。

巣台の板からはみ出た部分は2羽が運んだ巣材です。

とりあえず運んでいる様子。



2026年1月15日

巣材を入れて2週間。

全体的にこんもりしてきました。

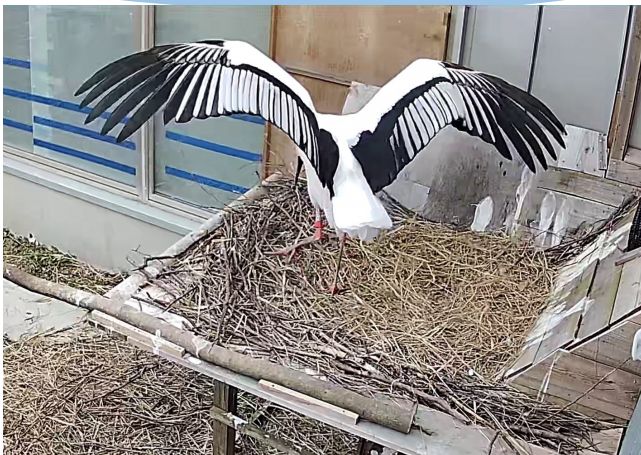
枝をメインで運んでいそうです。



2026年1月21日

3週間経つと、だいぶ丸くなり、巣らしくなってきました。

内巢と外巢もはっきりしてきました。



2026年1月28日

今度は内巢も大きくなってきました。チガヤや木綿などを持ってきては、編みこむようにくちばしで上から繰り返し突いて、奥へと詰め込んでいるようです。巢に乗った花が、ふわっと翼を広げるとこんな大きさです。

横から見ると、枝が1本ずつ細かく組み重ねられているのがわかります。



2026年2月9日

写真（上）の左側は、展示面の一番端のガラスを板で塞いだ部分です。ここが余程気になるのか、枝が日に日に高くなります。枝を組んでいる最中、この板にがつんがつんと枝がぶつかる音が館内からでもすぐそこに聞こえます。

ちなみに今季新しく板を張った2辺は、枝を置かずに壁を巢の一部として使っているようです。





2026年2月12日

巣台の経過を記録しようと、作業に入った日には、朝一番の掃除前に写真を撮っていました。しかしついにこの日、私がケージに入った直後、巣台へ近づく間もなく、カタカタとクラッタリングをしながら飛んできた空。その後の掃除中も、仁王立ちで視線を送ってくるので、この日以降は巣台には近づかず、観察カメラで様子を見ることにしました。

そんな空の縄張り意識のような巣への執着も、しっかり繁殖モードになっている証拠のひとつです。このカタカタ通信を書いている間にも、花がガラスの壁際に枝を積んでいます。今後も2羽や巣台の変化を観察していきます。

天空の里 鴻巣市コウノトリ野生復帰センター

飼育担当：寺内